第 15 回
（平成 26 年 12 月）

ＣＡＳＢＥＥ戸建評価員試験
問　　題

次の注意事項をよく読んでから、解答を始めてください。

［注意事項］

１．この試験は、CASBEE - 戸建（新築）マニュアル（2014 年版）及び CASBEE 戸建 - 既存マニュアル（2011 年版）の内容に基づくものです。
２．試験時間は、１４時００分から１６時００分までの２時間です。
３．問題は表紙を除いて１６ページあります。この他に解答用紙が１枚あります。
４．解答用紙に、氏名、生年月日（西暦）、受験番号（マーク欄にも記入）、試験会場名を記入してください。
５．各問題につき１つの解答を選んでください。複数選択した場合は不正解となります。
６．総合問題を除き、問題は分野ごとに分かれていますが、選択肢の全てがその分野に含まれる内容とは限りません。
７．この問題冊子への書き込みは差し支えありません。

一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構（IBEC）

※本試験問題の無断転載、複製、営利目的使用は禁じられています。

＜総合問題＞

問題1　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「戸建の環境効率ＢＥＥ$_{H}$」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「戸建の環境効率ＢＥＥ$_{H}$」は、「戸建の環境品質Ｑ$_{H}$」を「戸建の環境負荷Ｌ$_{H}$」で割った値である。

2　「戸建の環境品質Ｑ$_{H}$」と「戸建の環境負荷Ｌ$_{H}$」については、それぞれに採点・集計を行い、最終的に５点満点の点数に変換される。

3　「戸建の環境負荷低減性ＬＲ$_{H}$」は、「ＬＲ$_{H}$１　エネルギーと水を大切に使う」、「ＬＲ$_{H}$２　資源を大切に使いゴミを減らす」および「ＬＲ$_{H}$３　地球・地域・周辺環境に配慮する」の３つの分野で評価を行う。

4　「戸建の環境品質Ｑ$_{H}$」と「戸建の環境負荷Ｌ$_{H}$」の評価対象範囲を区分する地表面上の境界は、建物の敷地境界である。

5　戸建住宅は「戸建の環境効率ＢＥＥ$_{H}$」の値の大小に応じて、「Ｓランク（赤★★★★★）」、「Ａランク（赤★★★★）」、「Ｂ$^{+}$ランク（赤★★★）」、「Ｂ$^{-}$ランク（赤★★）」、「Ｃランク（赤★）」の５段階にランク付けされる。

問題2　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「ライフサイクルＣＯ$_{2}$（温暖化影響チャート）」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　ライフサイクルＣＯ$_{2}$に基づくランク付け（緑星ランキング）は、敷地内における太陽光発電を除いた「建築物の取組み」の評価結果に基づく。

2　ライフサイクルＣＯ$_{2}$に基づくランク付けでは、現在の一般的な住宅のレベルが「緑☆☆」となる。

3　建築物の取組みは、評価対象住宅の建築物での取組みを基に評価したライフサイクルＣＯ$_{2}$を、「建設」「修繕・更新・解体」「居住」の３つの段階に分けて表示する。

4　ライフサイクルＣＯ$_{2}$におけるオンサイト手法とは、敷地内における低炭素化の取組みのうち、住宅本体での断熱化や省エネルギー設備等以外の、太陽光発電システムなどを指す。

5　ライフサイクルＣＯ$_{2}$の算定方法は、評価ソフトが自動計算する「戸建標準計算」と評価者が独自に計算する「戸建独自計算」とがある。

問題3　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「戸建の環境負荷低減性ＬＲ$_{H}$」の「評価項目」に含まれないものはどれか。

1　躯体と設備による省エネ

2　使用材料の情報提供

3　既存の自然環境の保全

4　節水型設備

5　バリアフリー対応

問題4　「ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）の使い方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　環境品質・性能および環境負荷低減策を共通の指標で示すことにより、利害関係者の間で価値観の共有化を図るツールである。

2　設計中の住宅の環境性能について総合的に確認する環境配慮設計ツールとして活用することができる。

3　環境性能を消費者に分かりやすく伝える環境ラベリングツールとしての活用が考えられる。

4　すべての評価条件が決まらない（例えば設計初期）段階では評価を行ってはならない。

5　評価結果を第三者に提示する場合は、評価結果に加えて「敷地、家族構成、使われ方、外構などを想定したものである」という但し書きをつけることとする。

問題5　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「二世帯住宅の評価の考え方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　内部で行き来できる二世帯住宅のみを対象とし、完全分離型は評価対象外とする。

2　評価対象室が複数ある場合は、床面積が最も大きい室で評価する。

3　評価対象室が複数あり、それらの室が同じ面積の場合は、使用頻度が多い室で評価する。

4　日常的に利用されない室（ゲストルーム等）　は評価対象外とする。

5　評価対象設備が複数ある場合は、評価者が任意に選択して評価することができる。

問題6　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「採点基準の見方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「評価内容」欄では、何をどのような基準、あるいは考え方で評価しているか、という評価の視点を示す。

2　「評価レベル」欄において、（該当するレベルなし）と記載されているレベルは無いものとして扱う。

3　「加点条件の有無」欄には、「評価レベル」欄の採点基準による評価の後、ある条件に基づく追加の取組みによりレベルをあげる仕組みの有無が記載されている。

4　「条件によるレベル変更」欄には、「評価レベル」欄の採点基準等にかかわらず、ある条件でレベルが決まる場合は、その条件が記載されている。

5　「評価対象外」欄には、立地上の制限や建築基準法の規制条件などにより、その項目を一律レベル３と採点する場合の条件が記載されている。

問題7　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「ライフサイクルCO_2の評価方法」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「建設」では、新築段階で使う部材の製造・輸送、施工を評価対象とする。

2　「修繕・更新・解体」では、修繕・更新段階で使う部材の製造・輸送、解体段階で発生する解体材の処理施設までの輸送と処理工程までを評価対象とする。

3　「居住」では、居住時のエネルギー・水消費を評価対象とする。

4　「建設」「修繕・更新・解体」では、部材製造工場や関連施設の運営などに伴い間接的に排出されるCO_2は評価対象外とする。

5　「居住」のCO_2排出量のうち、エネルギーにかかるCO_2排出量は、住宅の省エネルギー基準（平成２５年１月告示）の算定プログラムを用いた一次エネルギー消費量算定結果を用いて算出する。

問題8　ＣＡＳＢＥＥ戸建- 既存における、「評価の基本的な考え方」について、次の記述のうち最も不適切なものはどれか。

1　評価対象は建物本体に限らず、外構、居住者の持ち込み機器等を含む。

2　評価対象について現状確認を行ったうえで評価することを原則とする。

3　設備機器を評価する場合は、その動作確認を行い、著しい劣化が認められる場合等は、最低レベルとして評価する。

4　実際のエネルギー消費量など、居住した結果の実績で評価する。

5　採点の基本的なレベル設定は、現在建設される一般的な日本の戸建住宅がレベル３となるようになっている。

問題9　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存における「建設」「修繕・更新・解体」のCO_2排出量の計算について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「修繕・更新・解体」では、修繕・更新段階で使う部材の製造・輸送、および解体段階で発生する解体材の処理施設までの輸送を評価対象とする。

2　新築時に日本住宅性能表示基準「３－１　劣化対策等級（構造躯体等）」における等級３を満たし、築後２０年を経過している場合、躯体・基礎の寿命は７０年としてCO_2計算される。

3　「Q_H２．１．３　屋根材、陸屋根」について、採用時の想定耐用年数が「１２～２５年未満の耐用性が期待される」場合、交換周期は１８年とする。

4　評価時点以前に外壁の補修工事を行い、改修前の外壁材とは異なる外壁材を採用している場合、評価時点で採用されている外壁材の想定耐用年数にもとづき交換周期が設定される。

5　木造の「修繕・更新・解体」のCO_2排出量について、躯体の想定耐用年数３０年、外壁材、屋根材の想定耐用年数が３０年、維持管理の計画・体制がレベル３であれば、CO_2排出量は、３．０２３ｋｇ-CO_2／年㎡となる。

＜Q_H1 室内環境を快適・健康・安心にする＞

問題10　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「日射の調整機能」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 居間を含む一体的空間と主寝室の、南面から±１５０°の範囲の外壁、および屋根に設けられた開口部を評価対象とした。

2 南面の庇は、夏期の日射は遮蔽するが、冬期の日射は遮蔽しないので、冬期の日射侵入率の計算から除外した。

3 ガラスの日射侵入率を、カタログにより確認した。

4 真南に設置された庇に対して、庇の出幅が窓下端と庇の高低差の０．４倍であったので、日射遮蔽に有効な庇であると判断した。

5 同一室内に複数の開口部があるので、もっとも面積の大きい開口部の日射侵入率を採用した。

問題11　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「適切な冷房計画」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 居間を含む一体的空間において、適切な冷房計画が行われているので、レベル３とした。

2 全ての居室において、適切な冷房計画が行われているので、レベル５とした。

3 冷房設備の設置が未定であったので、評価対象外とした。

4 カタログを参考に、対象居室の大きさに合った容量のエアコンを選定したので、適切な容量の冷房設備であると判断した。

5 エアコン以外の冷房設備を用いたので、居室内の温度分布が一様であることと、温度制御が可能であることを確認し、適切な冷房計画であると判断した。

問題12　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「適切な換気計画」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 台所、便所、浴室で発生する汚染物質に対して、換気等の適切な処理計画がなされているので、レベル３とした。

2 台所において、燃焼機器の排ガスの逆流の可能性があったので、レベル２とした。

3 便所において、必要な局所換気が確保できる窓が設置されているので、適切な処理計画がなされていると判断した。

4 浴室の換気量の目安は、３００㎥／ｈである。

5 レベル５は、レベル３を満たした上で、必要な換気量が建物全体ではなく居室単位で確保できる場合に評価する。

問題13　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「災害に備える」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 災害発生時の室内における安全性確保と、災害発生後に一時的な自立が可能となる取組みを評価する。

2 災害への対策としては、主寝室における家具の転倒防止策のみであったので、レベル３とした。

3 「屋内の人的安全対策」は行われていないが、停電時に利用可能な太陽光発電システムを備えているので、レベル４とした。

4 扉付き食器棚に耐震ラッチを設置したので、食器等の落下防止策がとられていると判断した。

5 「災害発生後の一時的な自立」として評価するためには、停電時に利用可能なシステムの設置だけではなく、自立生活の方法をすまい手に伝える必要がある。

問題14　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「昼光の利用」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 単純開口率が１５％であるので、レベル２とした。

2 単純開口率が２２％で、居間を含む一体的空間および主寝室に昼光利用設備があるので、レベル４とした。

3 単純開口率は、日本住宅性能表示基準「７－１　単純開口率」に準ずる。

4 南面から西に６０°斜め方向に向いた窓は、加点条件における「南面の窓」とはみなされない。

5 加点条件における「昼光利用設備」には、ライトシェルフや集光装置などが含まれる。

問題15　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存における「基本性能」の「断熱性能の確保」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 既存住宅の断熱性能の確認は、新築時の設計図書のみで評価を行うことができる。

2 日本住宅性能表示基準「５－１　省エネルギー対策等級」の等級４相当の断熱性能であるので、レベル４とした。

3 住宅型式性能認定を取得した住宅であるので、認定書から「省エネルギー対策等級」を確認した。

4 長期優良住宅認定を受けた住宅であるので、等級４相当と判断した。

5 旧住宅金融公庫の融資条件は、融資を受けた時期により相当等級が異なるので注意が必要である。

＜Q_H2 長く使い続ける＞

問題16　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「長寿命に対する基本性能」の「外壁材」に関する評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 サイディング外壁の評価の際に、目地防水が適切にメンテナンスされることを前提として、サイディングの耐用年数により評価した。

2 引っ掛け式のタイル工法を採用していたため、レベルを１つあげた。

3 ＡＬＣ材(乾式工法)について、レベル４と評価した。

4 劣化促進試験で検証された耐用年数が得られなかったため、実物件における使用実績により耐用年数を定めた。

5 コンクリート打放し仕上げについて、高耐久塗装が施されているためレベル５とした。

問題17　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)における「長寿命に対する基本性能」の「屋根材、陸屋根」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 折板葺きによる防水層が露出していない陸屋根を「屋根材」で評価した。

2 屋根材で評価する際、複数種類の屋根材を採用していたため、面積の占めている割合が大きな屋根材にて評価した。

3 屋根材で評価する際、引っ掛け式の金属固定金具で屋根材を固定することにより、屋根材より耐用性の高い下地を破損しないで屋根材交換が可能であったため、レベルを１つあげた。

4 防水層で評価する際、防水層を構成する部品がユニット化されていることにより、構成単位毎の更新が可能であったため、レベルを１つあげた。

5 防水層で評価する際、防水材が日射遮蔽されており、保水しないように適切な勾配が設定されていたため、レベルを２つあげた。

問題18　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)における「長寿命に対する基本性能」の「自然災害に耐える」および「火災に備える」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「自然災害に耐える」の評価は、地震と台風の両方に対する構造躯体の倒壊、崩壊等のしにくさにより評価する。

2 「火災に耐える構造」の評価において、「延焼のおそれのある」部分がない場合は、評価対象外とする。

3 「火災に耐える構造」の評価において、延焼のおそれのある部分の外壁等（開口部以外）の火熱を遮る時間が３０分相当であるので、レベル３とした。

4 「火災の早期感知」については、火災を感知する部屋と、警報を発する場所の組合せで評価する。

5 「火災の早期感知」の評価において、日本住宅性能表示基準「２－１　感知警報装置設置等級（自住戸火災時）」における等級３を満たす場合と等級４を満たす場合の評価レベルは同じである。

問題19　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)における「維持管理のしやすさ」の評価について、下記の仕様の場合のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
・延べ面積１００㎡の電気・ガス併用住宅。
・日本住宅性能表示基準「４－１　維持管理対策等級（専用配管）」における等級２を満たす。
・給湯ヘッダー方式を採用している。
・電気幹線の設計容量は５，０００ＶＡ。

1　レベル１

2　レベル２

3　レベル３

4　レベル４

5　レベル５

＜Q_H3 まちなみ・生態系を豊かにする＞

問題20　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「敷地内の緑化」の評価について、下記仕様のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
・敷地面積：２４０㎡、指定建ぺい率：４０％
・花壇の面積：１５㎡
・植栽時の樹高５ｍの樹木：１本
・幅０．５ｍ、長さ１０ｍの生垣

1 レベル１

2 レベル２

3 レベル３

4 レベル４

5 レベル５

問題21　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「生物の生息環境の確保」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 庭に樹木を１本植えていたが、野鳥がエサとすることができる食餌木ではなく、将来的に成長しても樹高２ｍ程度と判断されたため、レベル１として評価した。

2 庭の一部分ではあるが、蛇籠（じゃかご）を設置し、小さな生き物の生息場所となるような多孔質な空間を確保していたため、レベル３として評価した。

3 庭に樹高３ｍ以上の花や実をつける樹木を、野鳥等が地域の中を移動できるよう連続的に配しており、また樹種も３種類以上であったため、レベル５として評価した。

4 本項目では、指標とする生き物として主に野鳥を想定しているが、野鳥以外の生き物を想定した取り組みについての評価でもよい。

5 計画地周辺に豊かな生物環境が認められない場合は、本項目は評価対象外とすることができる。

問題22　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「地域の安全・安心」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 敷地内の建物の周囲に有効幅１．０ｍの通行可能な空間を確保したが、境界部をコンクリートブロック塀にしたため、「取組み１」として評価できなかった。

2 隣接住戸の台所や窓近くに、防火性の高い樹種で高さ１．０ｍの生垣を作ったため、「取組み２」として評価した。

3 敷地に接する道路幅員が４ｍだったので、道路境界線から建物壁面までの距離を２ｍ以上確保し、接道部を軽量フェンスとしたため、「取組み３」として評価した。

4 夜間でも人の行動を視認できる照度が確保できるよう、センサー付きの門灯を設置したため、「取組み４」として評価した。

5 フェンスや車庫、設備機器、植栽などを適切に配置し、自住戸や隣接住戸の室内に侵入する足掛かりとならないよう配慮したため、「取組み５」として評価した。

問題23　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「地域の資源の活用と住文化の継承」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 敷地の所在する地域の伝統的な住宅形式である、寄棟造りの妻側の屋根を切り上げた、いわゆる兜造りを採用したため、「取組み１」として評価した。

2 敷地に存在した、地域を象徴する古い土蔵を保全し、庭園の一部として活用したため、レベル４として評価した。

3 住宅の内装材として地場産材の漆喰を用いた上に、外構材に地域で古くから産出される石材を用いたため、レベル５として評価した。

4 地域の山林環境の再生に資することを目的に、地域で産出される木材資源を、住宅の構造躯体、内外装材、外構資材として使用したため、レベル５として評価した。

5 敷地が大規模埋め立て地に開発された住宅地で、地域に歴史や伝統がなく、地域性のある材料や地場産の木材がなくても、評価対象外にはならない。

＜LR_H1　エネルギーと水を大切に使う＞

問題24　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「躯体と設備による省エネ」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　評価レベルは、基準一次エネルギー消費量と設計一次エネルギー消費量（ともに家電等の一次エネルギー消費量を含まない）の比率（消費率）の大きさに応じて決まる。

2　一次エネルギー消費率が８９％の場合は、レベル５である。

3　本評価項目は、必ず住宅の省エネ基準の一次エネルギー消費量算定用Ｗｅｂプログラムを用いて結果を算出し、評価する必要がある。

4　日本住宅性能表示基準「５－２　一次エネルギー消費量等級」で等級４の場合は、レベル４となる。

5　住宅の省エネ基準の一次エネルギー消費量算定用Ｗｅｂプログラムを用いて評価する際には、太陽光発電が設置される条件では、太陽光発電による発電量（総発電量）の値が必要となる。

問題25　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）の「躯体と設備による省エネ」で評価される「省エネ手法」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　自然通風の利用

2　高効率冷蔵庫の採用

3　太陽熱温水器の採用

4　高効率照明器具の採用

5　節湯型水栓の採用

問題26　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)の「躯体と設備による省エネ」の評価における「暖冷房エネルギーの削減手法」に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1　「建物の形状、窓の大きさ」について、建物形状をシンプルにし、窓の大きさを極力小さくすると、暖冷房負荷が低減できる。

2　「窓の方位」について、夏の窓からの日射侵入量は、南面が他の方位と比べて突出して多いわけではなく、東西面で多い。

3　「断熱化・気密化」について、開口部は外壁に比べて面積は少ないものの熱損失量が非常に多いため、開口部の断熱化が重要である。

4　「日射の遮蔽（夏期）、取得（冬期）」について、開口部から侵入する日射熱は、冬期には暖房負荷を低減し、夏期には冷房負荷を増大させる要因となる。

5　「通風利用」について、同方位の壁面にしか窓を確保できない場合でも、窓を２面以上設ければ、外気を室内に効果的に取り入れることができる。

問題27　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)の「躯体と設備による省エネ」の評価における「換気エネルギー」に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1 換気設備にはダクトを用いるダクト式とダクトを用いない壁付け式があり、ダクト式とは一台の換気設備に合計１ｍ以上のダクトが使用されるものをいう。

2 ダクト式の換気設備は、径の大きいダクトを採用したり、電動機を直流モーターにすると、省エネとなる。

3 壁付け式の換気設備は、比消費電力の値が大きいほど、省エネとなる。

4 熱交換型換気設備では、熱交換による負荷削減効果と、換気設備自身のエネルギー消費量の増加のバランスに気をつける必要がある。

5 第１種換気は給気と排気の両方を、第３種換気は排気のみを機械により強制的に行う換気方式である。

問題28　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)の「家電・厨房機器による省エネ」について、以下の条件のレベルとして正しいものはどれか。

※条件
・電気冷蔵庫　：多段階評価３つ星
・電気便座　　：多段階評価３つ星
・液晶テレビ　：多段階評価３つ星
・ガスコンロ　：省エネ基準達成率１００％未満

1 レベル１

2 レベル２

3 レベル３

4 レベル４

5 レベル５

問題29　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)における「水の節約」「維持管理と運用の工夫」に関する評価項目について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「節水型設備」の評価では、節水型設備による上水消費量の削減対策を評価する。

2 「節水型設備」の評価では、電気食器洗い機の設置が評価する取り組みの対象となるが、定置型で給湯設備に接続されている必要がある。

3 「雨水の利用」の評価では、取り組みがなくともレベル３である。

4 「住まい方の提示」の評価では、設備毎の取扱説明書が居住者に手渡され、すまい手に省エネに関する住まい方について一般的な説明がなされていれば、レベル４である。

5 「エネルギーの管理と制御」の評価において、電力使用の調整機能を有しないＨＥＭＳを採用する場合、レベル５である。

＜LR_H2　資源を大切に使いゴミを減らす＞

問題30　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」「構造躯体」に関する下記仕様の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

※仕様
①床面積に対して、木質系構造部分が３０％、鉄筋コンクリート造部分が７０％を占める混構造。

②木質系構造部分は、過半にリユース材が使用されており、残りの部分は「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」に従い、持続可能性が証明された木材が使用されている。

③鉄筋コンクリート造部分は、基礎部分において高炉セメントＢ種が用いられており、残りの部分は普通セメントが用いられている。

1　過半にリユース材が使用されているため、木質部分の評価を２レベル上げた。

2　「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」に従い持続可能性が証明された木材を使用した箇所については、加点評価をしなかった。

3　木質系構造部分の評価をレベル５とした。

4　鉄筋コンクリート造部分の一部に高炉セメントが用いられているため、レベル４とした。

5　混構造全体の構造躯体の評価を、レベル４とした。

問題31　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　高炉セメントを用いたコンクリートの基礎部への適用を、「地盤補強材・地業・基礎」の省資源に対する取り組みとして評価した。

2　地盤改良用製鋼スラグの地盤改良材としての使用を、「地盤補強材・地業・基礎」の省資源に対する取り組みとして評価した。

3　外装材の評価として、胴縁および木摺を「外壁下地材」の取り組み評価の対象とした。

4　外装材の評価として、既存建築のリユース材が外装の一部に使用されているため、評価を１レベルあげた。

5　外装材の評価として、日射遮蔽を目的とした木製ルーバーについて「外装材」として評価した。

問題32　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)の「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」における「内装材」の評価について、以下の仕様のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
取り組みの数　：６つ
取組みの程度　：４点
内装材の過半に既存建築のリユース材を使用している。

1　レベル１

2　レベル２

3　レベル３

4　レベル４

5　レベル５

問題33　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)における「生産・施工段階における廃棄物削減」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「生産段階（構造躯体用部材）」の評価において、工場における構造躯体用部材の加工工程で定尺物からロスが少ない部材取りを行っているため、レベル５とした。

2　「生産段階（構造躯体用部材）」の評価において、構造躯体用部材の加工を全て施工現場で行っているため、レベル３とした。

3　「生産段階(構造躯体用部材）」の評価において、ＩＳＯ１４００１認証を取得している工場で生産された構造躯体用部材を使用したため、レベル５とした。

4　「生産段階（構造用躯体以外の部材）」の評価において、広域認定制度を取得しているメーカーの建材を１つ採用するように設計図書で指示しているため、レベル４とした。

5　「施工段階」の評価において、施工段階における副産物の分別が徹底されているため、レベル５とした。

問題34　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「リサイクルの促進」の「使用材料の情報提供」に関する評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　住まい手に対して、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に対する情報提供を行っていないため、レベル３とした。

2　躯体、内・外装に使用している面材・線材のメーカー、製品名、型番等の情報提供を住まい手に対して行っているため、レベル５とした。

3　住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に対する情報を、インターネットを通じて住まい手に提供しているため、レベル５とした。

4　木材、石材、土等の自然素材については、情報提供を必要としない。

5　評価対象とする住宅には使用されていないが、有害な材料に関する情報提供を企業として行っているため、レベル５とした。

問題35　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存における「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」の「構造躯体」「木質系住宅」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 構造躯体に「持続可能な森林から産出された木材」が全く使用されていないが、建築後８０年経過しているので、レベル５とした。

2 建築後６０年経過しており、かつ既存建築躯体のリユース材が構造躯体の過半に使用されていたため、評価を３レベル上げた。

3 構造躯体の全てに「持続可能な森林から産出された木材」が使用されているため、レベル５と評価した。

4 「持続可能な森林から産出された木材」の使用割合は、構造躯体（柱、梁、筋交い、小屋組および耐力壁等を構成する構造用合板）に占める体積割合で判断する。

5 日本国内から産出されたスギやヒノキ、およびそれらを原料とする集成材、合板等は、「持続可能な森林から産出された木材」として扱う。

＜LR_H3　地球・地域・周辺環境に配慮する＞

問題36　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「地球温暖化への配慮」の評価について、評価対象建物のライフサイクルCO_2の排出率が、一般的な住宅（参照値）に対して３０％となった場合のレベルとして、次の記述のうち最も近いものはどれか。

1　レベル３．８

2　レベル４．８

3　レベル５．０

4　レベル５．８

5　レベル８．６

問題37　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「地域インフラの負荷抑制」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　外構部において、植栽地や透水性舗装などの雨水浸透が可能な面積を６割確保することは、「取組み１」として評価できる。

2　屋根への降雨がといを通して流れ落ちる際に取り出して溜める雨水貯溜タンクを設置することは、「取組み３」として評価できる。

3　屋外に堆肥化設備を設置し、家庭菜園の堆肥などに使用できるようにすることは、「取組み４」として評価できる。

4　住宅内に可燃ごみ、不燃ごみを含めて５種類の分別ごみ箱を設置するスペースを設けることは、「取組み５」として評価できる。

5　下水道が整備された地区においても、浄化槽を設置するなど、汚水処理負荷を低減させる対策は「取組み６」として評価できる。

問題38　ＣＡＳＢＥＥ-戸建（新築）における「既存の自然環境の保全」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　既存の自然環境や自然資源の保全に全く配慮をしなかったため、レベル２として評価した。

2　造成された敷地を購入以降、手を加えず保全しているが、造成時点での保全状況が不明のため、「取組み１」として評価しなかった。

3　植物の生育に適さない表土に対して、積極的に土壌改良を行っていたため、「取組み２」として評価した。

4　従前から敷地にあった高木・中木を保全したため、レベル４として評価した。

5　敷地について「取組み１」と「取組み２」を行い、さらに地域の自生種である高木を敷地に新植したため、レベル５として評価した。

問題39　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)における「騒音・振動・排気・排熱の低減」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 生活騒音や悪臭などの近隣への影響は、本項目の評価対象から除外する。

2 排気・排熱の発生源については、隣接する建物の開口部付近に直接排気しないように設置していれば、「一般的な配慮」をしたとみなせる。

3 騒音・振動の発生源について、敷地境界における騒音値が４５ｄＢ（Ａ）以下であれば、「積極的な配慮１」を行っているとみなせる。

4 エアコン室外機について、吹出グリル（風向調整板）を取付け、敷地内外の植栽や隣接する住戸の開口部等に直接排気しないよう配慮した場合は、「積極的な配慮２」を行っているとみなせる。

5 隣接する敷地にまだ住宅が建っていないため、設備機器と隣接敷地の建物開口部や植栽との位置関係が未確定の場合でも、評価対象外にはならない。

問題40　ＣＡＳＢＥＥ-戸建(新築)における「周辺温熱環境の改善」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「取組み１」における卓越風向に対する建築物の見付面積率を算定するにあたり、見付け面積を、（卓越風向に直交する最大敷地幅×住宅の最高高さ）の値で除して求めた。

2 芝生や樹木等の緑化面積に、保水性舗装面積を足した面積の、敷地面積に対する割合が２０％であったため、「取組み２」として評価した。

3 舗装面積のうち、夏期に直達日射が当たらない部分と保水性の高い部分を除いた面積の、敷地面積に対する割合が１０％であったため、「取組み３」の①として評価した。

4 一部２階建ての住宅の１階屋根をバルコニーとして緑化し、全屋根面積の１０％相当が緑化面積であったので、「取組み４」の①として評価した。

5 取組み１～４のうち、いずれも取組んでいない場合は、レベル３として評価する。

平成26年度後期 （第15回） CASBEE戸建評価員試験　正解値

問題番号	正解値	配点
1	2	1
2	1	1
3	5	1
4	4	1
5	5	1
6	5	1
7	2	1
8	4	1
9	2	1
10	5	1
11	3	1
12	4	1
13	3	1
14	2	1
15	1	1
16	5、3※)	1
17	5	1
18	1	1
19	4	1
20	2	1
21	5	1
22	2	1
23	3	1
24	3	1
25	2	1
26	5	1
27	3	1
28	4	1
29	5	1
30	4	1
31	5	1
32	3	1
33	2	1
34	5	1
35	2	1
36	3	1
37	4	1
38	1	1
39	3	1
40	4	1

満点	40点
配点	1問各1点

※）選択肢5の他、3も不適当と考えられるので、
両者を正答とします。（訂正：2015.10.28）